

8th

伊豆沼・内沼の自然フォトコンテスト

入 選 作 品

主催 伊豆沼・内沼の自然フォトコンテスト実行委員会
(若柳町、築館町、迫町、宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団)
後援 宮城県、若柳町観光協会、築館町観光協会、迫町観光協会、
宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリ友の会、
河北新報社、読売新聞社、朝日新聞社、毎日新聞社、岩手日報社
協賛 富士写真フィルム株式会社、宮城県写真材料商組合

入 選 者

各 賞	題	氏 名	住 所
最優秀賞 (宮城県知事賞)	夕照	鈴木 正 一	仙台市泉区
優秀賞 (宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団理事長賞)	踏切一旦停止	尾形 昌 文	仙台市青葉区
金 賞 (若柳町長賞)	鷺吹雪	萩野 幸 夫	栗原郡築館町
金 賞 (築館町長賞)	厳冬の光と影	駒口 洋 一	宮城県石巻市
金 賞 (迫町長賞)	寒中の雨	佐藤 昭 夫	宮城県古川市
銀 賞 (若柳町観光協会会長賞)	飛沫を浴びて	根本 弘 美	黒川郡富谷町
銀 賞 (築館町観光協会会長賞)	耐寒	林 茂	仙台市若林区
銀 賞 (迫町観光協会会長賞)	黎明	小泉 清 孝	栗原郡若柳町
銀 賞 (宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリ友の会会長賞)	夜のコロニー	庄子 光 男	仙台市青葉区
銅 賞 (河北新報社賞)	輝動	菅原 敏 彦	黒川郡大和町
銅 賞 (読売新聞社賞)	北帰向	林 かつ子	仙台市若林区
銅 賞 (朝日新聞社賞)	沼の恵み	岩崎 浩 幸	遠田郡小牛田町
銅 賞 (毎日新聞社賞)	花と鳥	狩野 フサコ	桃生郡桃生町
銅 賞 (岩手日報社賞)	朝もや	菅原 勉	登米郡中田町
入 選	伊豆沼雁行	高橋 こうけん	仙台市青葉区
入 選	航路	永野 洋	宮城県名取市
入 選	雪景色	伊藤 利喜雄	岩手県一関市
入 選	蓮枯れて	岩松 兵 吉	仙台市青葉区
入 選	夜明け	高橋 紀 夫	岩手県前沢町
入 選	漁師	山本 正 彦	仙台市泉区

総 評

日本の代表的な野鳥のサンクチュアリでもある、宮城県
の伊豆沼と内沼。この湖沼で羽を休める野鳥の数も、
年々増加していると聞いています。今年は、何と10万羽
が羽を休める一大〔野鳥リゾート〕になりました。人と
自然とが無理なく調和する環境を生み出す、それこそ、
21世紀に向けて我々がなすべき仕事かもしれません。貴重
な自然遺産を、保護する為の写真コンテスト。主催する
側、撮影して応募する側、そして作品の審査をさせて
いただく側が、この点で一致していることは素晴らしい
ことだと認識しています。

さて、今回の応募作品ですが、全体的に水準は少しづ
つ向上しているように思います。つまり、応募者のレベ
ルが向上しているのです。作品の審査をしていて、安心
して観ていけることが嬉しかったのです。しかし、今回
の特徴は、全体的なレベルはとて高くなっているのだ
ですが、中でも「抜きんでている」と思われる作品がな
かったことです。自然を対象とした撮影は、相手の様子も
あることなので、一概には申し上げられませんが、次回
は、意欲的に挑戦して傑出したイメージを創り上げて欲
しいと思いました。

フォトコンテスト審査員 竹内 敏 信



1943年愛知県生まれ。
名城大学卒業後、愛知県
庁勤務を経て写真家とし
て独立。感覚の鋭さと独
特のカメラワークで、自
然の映像化を極め、新し
い風景写真家の旗手とし
て活躍中。93年春、「桜」
をテーマに日本原風景を
追究したビジュアルな写
真展を開催、話題を集め
た。現在、日本写真家協
会、日本旅行作家協会の
各会員、日本写真芸術専
門学校、現代写真研究所
の各講師。



【評】 静かに暮れていく内沼を、すべるように移動するハクチョウの姿が美しく、とても印象的な作品になっています。地味な作品ですが、このような美しい静寂が沼にはあるのです。



【評】 アイディアの勝利。沢山のカモの群れが電車の通過するのを待っている。そんな構図に仕立て上げた手腕は見事です。このように擬人化した作品がもっと出ると親しみやすくなります。

金賞（若柳町長賞）
「鷺吹雪」
萩野 幸夫



【評】 いいタイトルの作品です。これだけ多くのサギをいいポジションから、的確に写しとめていて、伊豆沼がいかにも野鳥のオアシスになっているかを物語ってくれます。

金賞（築館町長賞）
「厳冬の光と影」
駒口 洋一



【評】 オーソドックスな伊豆沼の作品です。朝日の輝きと湖面の水蒸気、そして活動を始めた野鳥の姿などが、調和のとれた美しい画面に展開しています。

金賞（迫町長賞）
「寒中の雨」
佐藤 昭夫



【評】 辺りは肌寒い空気。その冷気の中にシトシトと雨が降っています。しかし、このような気象の中でも、懸命に捕食をするサギの姿が印象的な作品になっています。



銀賞（若柳町観光協会会長賞）
「飛沫を浴びて」 根本 弘美

【評】朝日を浴びて、元気に羽ばたく白鳥の姿を、いいシャッターチャンスで捉えて、力強い作品になっています。

銀賞（築館町観光協会会長賞）
「耐寒」 林 茂



【評】全てのものが凍てついてしまったような厳寒の朝。冷たい空気を感じさせるようなトーンが美しい作品です。



銀賞（迫町観光協会会長賞）
「黎明」 小泉 清孝

【評】超望遠レンズを巧みに使って、真っ赤になって昇ってくる太陽と、水面の野鳥を巧みに捉えています。

銀賞（宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリ友の会会長賞）
「夜のコロニー」 庄子 光男



【評】何時頃に撮影したものか分かりませんが、コロニーで羽を休めるサギの姿を美しく捉えて成功しています。

銅賞（河北新報社賞）
「輝動」

菅原 敏彦



【評】構図の優れた作品です。湖面を照らしだす朝日の輝き。岸辺の野鳥などが美しいのですが少しピントがあやしい点が残念。

銅賞（読売新聞社賞）
「北帰向」

林 かつ子



【評】低い太陽の光を浴びていっせいに飛びだした野鳥の群れ。やがて北の国へ向かう。そんなロマンがあります。

銅賞（朝日新聞社賞）
「沼の恵み」

岩崎 浩幸



【評】見事な鯉を捕まえました。野鳥だけでなく、豊かな水産資源をもっているのもこの沼の特徴。そんなイメージの作品です。

銅賞（毎日新聞社賞）
「花と鳥」

狩野 フサコ



【評】夏の伊豆沼が、かくも美しいハス田となる。その見事な花の饗宴に、白いサギがアクセントになっています。

銅賞（岩手日報社賞）
「朝もや」

菅原 勉



【評】外気が冷え込んで、湖面から水蒸気が昇っています。その水面を悠々と泳ぐ、野鳥の姿が印象的な作品です。

入選
「伊豆沼雁行」 高橋 こうけん



【評】まさに野鳥の天国を思わせるガンの群れ。大空を覆う無数の鳥たち。鳥の多さが迫力となった作品です。

入選
「航路」 永野 洋



【評】湖面一杯に張り詰めたハスの絨毯。その中を、観光舟の航路が開かれています。面白いアングルの作品。

入選
「雪景色」 伊藤 利喜雄



【評】前夜、雪が降った。そして今日は冬晴れの爽やかな朝を迎えた。そんな空気感の漂う作品です。

入選
「蓮枯れて」 岩松 兵吉



【評】緑に覆われていた沼のハスが枯れてしまった。秋の淋しげな風景の中に、ポツリと佇むサギが印象的です。

入選
「夜明け」 高橋 紀夫



【評】静かに開けていく沼の朝。折よく通過したハクチョウを、ポイントとしてうまく生かして撮っています。

入選
「漁師」 山本 正彦



【評】早朝、まだ明けやらぬ空気の中を、網を上げて沼に入る漁師の姿を美しく捉えています。